

平成26年度第6回理事会議事概要

日 時： 平成26年9月4日（木） 15：30～16：30

場 所： 特別会議室

出席者： 理事長	鈴木 和夫
理事（企画・総務担当）	鈴木 信哉
理事（研究担当）	大河内 勇
理事（森林業務担当）	城土 裕
理事（業務承継円滑化・適正化担当）	百々謙治郎
監事	滑志田 隆
監事	西田 篤實
総括審議役	肥後 賢輔
総括審議役	飯田 道夫
審議役	安樂 勝彦
企画部長	落合 博貴
総務部長	飯干 好徳

1. 開会

2. 議事

本日は報告案件のみで12件（(1)～(12)）となっております。順次、説明をお願いします。

(1) 不適正な経理処理に係る調査委員会の設置について

（総務部長）

資料Ⅰ－1をご覧ください。8月22日付けのプレスリリースで、当所を含む5独法に経理処理に係る調査委員会が設置されました。

この委員会については事案の重要性から大臣等の意向が強く反映されたものとなり、委員の半数以上が外部の弁護士や公認会計士で占められています。

8月26日（火）に第一回の調査委員会を開催し、調査委員会の下に調査チームを発足させました。

このチームが主体となって、研究者や経理・用度担当職員へのヒアリングを9月2日からスタートしています。

なお、今回の調査趣旨を徹底させる目的で、理事長および企画・総務担当理事からのメッセージを発出していますので添付資料を参照ください。

ヒアリング結果についてはある程度まとまった段階でご報告する考えです。

今後のスケジュールですが、11月末に会計検査院がDNAプリペイドカードについての検査報告を行った直後に、5独法の調査結果についても報告すると聞いていますので、11月下旬には我々の調査結果をとりまとめておく必要があります。

(2) 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針の平成26年度フォローアップ結果」の公表について

（鈴木理事）

資料Ⅰ－2をご覧ください。平成25年12月24日に閣議決定された「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」の26年度のフォローアップ結果が8月29日に公表されましたので概要を報告します。

まず、1ページ～7ページまでは各独法に共通の事項で、措置状況1は措置済み、2は一部措置済み、3は未実施なので、2及び3となっている事項について今年度中に対応していくこととなります。

また、89ページと90ページが当所に関わるものですが、これについても2及び3となっている事項について今年度中に対応していくこととしています。

(3) 平成26年夏の台風・豪雨災害への対応について

（企画部長）

資料Ⅰ－3をご覧ください。1から5の災害について、林野庁や各県からの要請に基づいて当所の職員を派遣しています。

また、これらに関連してマスコミ等からの問い合わせが30件超ありましたので報告します。

(城土理事)

森林農地整備センターの分収林契約地の被害については、福島県等で作業道の一部に軽微な崩壊がありました。今後、これらの修理等に取り組むこととしています。

(4) 農林水産省独立行政法人評価委員会林野分科会ワーキング会合(7月25日)及び第53回林野分科会(8月22日)の概要について

(鈴木理事)

資料Ⅰ－4－1をご覧ください。7月25日にワーキング会合が開催され、監事からも意見を述べていただきました。

資料Ⅰ－4－2をご覧ください。8月22日には林野分科会が開催され、25年度業務の評価結果をいただきました。

当初、当所からは、S評価を3つ提出していましたが、森林農地整備センターの事業についてもS評価をいただいたので、S評価が4つになりました。

現行制度の下での分科会は今回が最後になりますので、各委員からはこれまでの森林総研に対する評価と今後への期待に関して、たくさんのご意見をいただきました。

なお、当該評価結果はHPに掲載されています。

(大河内理事)

委員からのコメントの中で、中堅研究者の学位取得を進めること、森林学会、木材学会などに加盟して求心力を高めることについて指摘がありましたので、領域長、支所長等に対してその旨を連絡していますので報告しておきます。

(5) 平成27年度概算要求(研究・育種勘定運営費交付金及び施設整備費補助金)の概要について

(鈴木理事)

資料Ⅰ－5をご覧ください。これまで理事会には概算要求が決定した際にご報告していましたが、来年度の政策の方向性などを把握する観点から、要求段階のものについてもご報告させていただきます。

まず、交付金については、今年度の95億円が92.5億円になっています。

なお、森林保険特会の移管に関わって、獣害に関する調査費が上乘せされていますので申し添えます。

次に、施設整備費補助金ですが、8,000万円が1億9,700万円に増額されています。配水管の漏洩検知装置等の経費が計上されています。

(飯田総括審議役)

続いて、水源林造成事業等の概算要求ですが、資料のとおり、総額が283億6千万円で、対前年度112.1%となっています。これには特別重点要求分42.88億円が含まれています。

借入金、非公共事業の要求額については資料のとおりです。

(6) 森林総合研究所一般職員(育種)採用試験の応募状況について

(安楽審議役)

一般職員(育種)採用試験の募集を8月29日に締め切りました。応募者は12名となっています。

9月12日に面接を行い2名採用します。最終合格者の決定は9月下旬、内定は10月上旬を予定しています。

(7) 森林農地整備センター職員(技術系)採用試験の最終合格者について

(城土理事)

前回の理事会でもご報告しましたが、二次試験後の内定者として5名(うち女性1名)を決定し、10月1日の採用内定に向けて作業を進めていく考えです。

(8) 森林農地整備センター職員(事務系)採用試験の応募状況について

(城土理事)

事務系については、47名の応募がありました。男性と女性の比率は概ね2:1です。今後9月末に一次試験を、11月中旬に面接試験を実施し、年内に採用者を内定したいと考えています。

(9) 財政融資資金等の実地監査について

(飯田総括審議役)

この監査は財務省が実施するもので、財政投融资の対象事業にふさわしい政策的意義、財務の健全性・償還確実性、資金の適正な執行等の実態を確認するものです。

昨日、整備センターで監事等のヒアリングが行われました。

今後、地方の整備局を含め現地往査が予定されています。その後、所見の通知、監査結果の通知が行われた後、理事長との意見交換が予定されています。

(滑志田監事)

昨日のヒアリングでは、22事務年度の監査結果の反映状況と財務の健全性について説明しました。

(10) 森林農地整備センターの平成25年度収穫・販売実績について

(城土理事)

整備センターの業務も森林造成のみならず資源利用の段階に入りましたので、平成22～25年度の収穫・販売の実績を報告させていただきます。

年度ごとに増減がありますが、25 年度には、間伐面積 1 万 ha, 主伐面積 120ha, 販売材積が間伐 11 万 6 千 m³, 主伐 4 万 4 千 m³, 販売金額がそれぞれ 7 億円と 1 億 2 千万円となっています。

(11) 森林農地整備センターの情報セキュリティ対策について

(百々理事)

最近の情報漏えい問題等を踏まえた整備センターの取組状況を報告します。

管理体制の強化、情報システムに関するセキュリティ対策及び情報処理委託業者へのセキュリティ対策の 3 つに取り組んでいます。

(12) 小笠原・清瀬試験地内の通学路について

(総務部長)

前回の理事会で小笠原の監事監査の結果の内、清瀬試験地の通勤・通学利用の実態について、資料 I-6 の調査を小笠原野生生物研究会にお願いしていますので報告します。

(肥後)

報告事項は以上です。これにて終了します。

次回の平成 26 年度第 7 回理事会は 10 月 9 日(木)に開催予定です。

3. 閉会